

インターネットとアクセシビリ ティー

ISOC-JP セミナー 2019

2019年12月12日

中根 雅文

概要

- 自己紹介
- 視覚障害者と情報
- アクセシビリティ
- まとめ

自己紹介

自己紹介 (1)

- ▣ 2歳のとき失明
- ▣ 高校卒業までは盲学校に通学

自己紹介 (2)

- ▣ 慶應義塾大学環境情報学部および
同大学院政策・メディア研究科修士課程
- ▣ 研究対象は情報分野のアクセシビリティ

自己紹介 (3)

- ▣ 学生時代から、World Wide Web Consortium (W3C)の Web Accessibility Initiative (WAI)に参加。
- ▣ その後、非常勤スタッフを経て、常勤のスタッフとして同コンソーシアムで活動。

自己紹介 (4)

- ▣ 現在は個人事業主としてWeb関連の業務などを請け負いながら
- ▣ free株式会社勤務
- ▣ ICTを活用する視覚障害者の当事者組織
日本視覚障害者ICTネットワークの設立準備中

視覚障害者と情報

視覚障害

- ▣ ロービジョン (弱視): 見えにくい
- ▣ 全盲: 見えない

従来の視覚障害者の情報入手

- ▣ 点字図書
- ▣ 拡大図書/拡大表示
- ▣ 録音図書
- ▣ テレビ・ラジオ
- ▣ 誰かに読んでもらう

デジタル情報の活用

個々のニーズに合った形式に加工できる:

- ▣ 音声読み上げ
- ▣ 点字表示
- ▣ 拡大表示

視覚障害者とコンピュータ (ロービジョン者の場合)

- ▣ 大画面と拡大表示の組み合わせ
- ▣ 適切な配色の選択
- ▣ 適切な画面表示の選択

視覚障害者とコンピュータ (全盲者の場合)

- ▣ 音声出力の利用
- ▣ 点字出力の利用
- ▣ 画面全体の鳥瞰図を得られない

デモ: 全盲のコンピューター利用

- ▣ 音声で読み上げさせる
- ▣ 漢字変換

変化は情報取得だけではない

- ▣ 独力での情報作成・発信
- ▣ コミュニケーションの機会の増大
- ▣ 学習・就労機会の増加
- ▣ 社会参加と
自立した社会生活の促進

障害の医療モデルと社会モデル

- ▣ 医療モデル：
医学的な事実に基づいて、その人が障害者であると判断する考え方
- ▣ 社会モデル：
社会環境の不備がその人の不便を生み、その人を障害者に行っているとする考え方

アクセシビリティ

アクセシビリティとは

- ▣ **accessibility:**
access + ability
- ▣ 誰もが、
ほぼ同じコストで、
同じ目的を達成できる状態

誰もが

- ▣ 多様な利用環境
- ▣ 多様な年齢
- ▣ 障害の有無

コスト

- ▣ 経済的コスト
- ▣ 身体的労力
- ▣ 精神的負担

アクセシビリティに取り取り組む必要性

- ▣ 法的要求
- ▣ 利用者数の最大化

法適用給

- ▣ アメリカでは複数の連邦法でアクセシビリティ確保が義務づけられている
- ▣ ADA
- ▣ Section 508
- ▣ CVAA
- ▣ ACAA

ADA

- ▣ **Americans with Disabilities Act**
- ▣ 障害があることを理由に、公共サービスの利用などに当たっての差別を禁止
- ▣ **1990年施行**

Section 508

- ▣ リハビリテーション法508条
- ▣ 連邦政府および関連機関の調達基準としてアクセシビリティ確保を義務づける

CVAA

- ▣ The Twenty-First Century Communications and Video Accessibility Act
- ▣ 通信機器、通信サービスなどが障害者に利用できるようにすることを義務づける

ACAA

- ▣ **Air Carrier Access Act**
- ▣ アメリカに乗り入れる航空便の運行会社が対象
- ▣ 障害者の利用を可能にすることを義務づけ
- ▣ 空港施設、**Web**サイトなども対象

訴訟リスク

- ▣ アメリカではアクセシビリティ関連の訴訟が増加している
- ▣ 2018年には2,258件

日本では?

- ▣ 障害者差別解消法が2016年4月施行
- ▣ 民間は努力義務

利用者数の最大化

- ▣ 利用できない人を減らす：
そのサービスを利用するという文脈で障害者を生まない
- ▣ 直接的に利用できない人以上の逸失利益の可能性

なにをすべきか

- ▣ 支援技術と親和性の高い開発
- ▣ OSや開発環境標準のライブラリーの活用
 - 各社の開発ガイドライン
- ▣ Web標準やガイドラインの順守
 - W3C Web Content Accessibility Guidelines
 - JIS X 8341-3:2016

まとめ

これからのICTと障害者

- ▣ AI (人工知能)、VR (仮想現実)、IoT (物のインターネット)
- ▣ 人が持つ感覚機能、身体機能がネットワークの向こうにあるという状況が加速
- ▣ 個々の身体的能力の差が持つ意味が小さくなる

おわりに

- ▣ コンピューター・ネットワークは、不便を便利に、困難を容易に、そして不可能を可能にするための道具である

本日のスライド

- ▣ ご意見、ご感想は：
 - E-Mail: max@NAKANE-Masafumi.jp
 - Twitter: @ma10
- ▣ 個人サイト: <http://NAKANE-Masafumi.jp/>
 - ▣ 日本視覚障害者 ICTネットワーク:
<http://jbict.net/>

